

あつぷる通信

特定非営利活動法人すてっぷ・あつぷる 地域子育て支援センターあつぷる

TEL : 090-5764-4428 TEL/FAX : 0553-39-9382

2019年度の主な活動とのべ参加人数

子育て支援センターあつぷる	4970名
一時預かり「あつぷるはうす」	912名
ママリフレッシュ講座	635名
小学生企画	1009名
中高生ボランティア体験	47名
出前講座他 他団体との協働事業	62名

2020年度の主な活動とのべ参加人数

子育て支援センターあつぷる	3982名
一時預かり「あつぷるはうす」	887名
ママリフレッシュ講座	853名
小学生企画	736名
中高生ボランティア体験	40名
出前講座他 他団体との協働事業	199名
女性支援	13名

Beforeコロナ Withコロナ

初代表理事 塚田 純子

コロナに振り回された2020年でした。

法人設立から10年、一巡りして代表理事が戻ってきたのです。よりによってこんな時に？

10年の間にスタッフも10人以上に増え、責任の重さに圧倒されました。

でもそれは助けてくれる人が増え、みんなのスキルや経験値も上がっているということでもあります。非常時だからこそ皆が助け合い、協力し合って乗り越えられるということを実感し、人と人とのつながりや連携がどんなに重要かということ学びました。当たり前毎日を忘れてしまうくらい、生活が一変したこの一年。

子どもたちがおしくらまんじゅうをしてじゃれ合うこと、赤ちゃんを見てにっこり笑顔を見せること、友達と肩寄せ触れ合うこと、皆でお喋りしながら食事をする、イベントで大勢集まって盛り上がること…普通だと思っていたことがどんなにありがたいことであったか、人として大切なことは何か、あたためて問いかける日々となりました。

オンラインだからできる新たな手応えもありましたが、直接会わなければできないこともたくさん。例えば、最近0歳児さんが遊びに来た時の発見。やっとハイハイができるようになってあちこち動き回って得意そうな赤ちゃんを、同じくらいの月齢のうつ伏せ嫌いでなかなかハイハイしなかった別の赤ちゃんがじっと見つめて、突如ぎこちないハイハイを始めたのです！その嬉しそうな顔と言ったら…。

赤ちゃんもお友達を観察し大きな影響を受けているということに感動しました。

ワンオペ育児どころかこの非常時に出産したママたちの苦労やストレスは計り知れません。

「本当によく頑張ってくれたね」とたたえあいたいと思います。そしてこれからもwithコロナは続きます。ストレスが慢性化して今後も様々な問題が表面化してくるでしょう。コロナより怖いのは「孤立・孤独」。新年度からは、より一層支援の必要な家庭への相談体制もスタートします。1組でも多くの家族が幸せになりますように。



TOPIC

特集①インターン学生インタビュー
2019年度事業報告

特集②Withコロナの支援
2020年度事業報告

特集① インターン学生 インタビュー

高校生ボランティアとして、2年生と3年生で2度の体験に来てくださったA子さん。実際に体験してみての感想をインタビューしました。

Q. ボランティア体験に応募した理由を教えてください。

赤ちゃんや女性を支える仕事に就きたくて、助産師を目指しています。地域で働く助産師さんや妊婦さんのお話を聞いてみたいと思っていたので応募しました。

Q. 今回2度目の体験に再挑戦したきっかけは？

前回、担当者さんと1人の妊婦さんが相談をしている時、不安そうだった表情がどんどん笑顔になっていく様子を見て感動し「私もお母さんたちを支えられる人になりたい!」と強く思いました。この時は助産師さんには会えなかったので、助産師の仕事はどのようにお母さん達と関わるのか気になり、もう一度行きたいと思っていました。

Q. 一番印象に残ったこと、感動したこと、役に立ったことを教えてください

赤ちゃんの心音が一番感動しました。まだ姿は見えないけれど、どの赤ちゃんの心音も力強くて、聞こえただけで感動してしまいました。マタニティビクスの体験、お母さん達のお話を聞く中で「出産は本当に大変だ」と身をもって知ることができたのはとても役に立ったと思います。

Q. 助産師として具体的に将来やりたいことは？

お母さんたちを支え、笑顔にしたいです。私は「虐待をなくしたい!」と、ずっと考えてきました。妊娠出産は精神面、体力面とも大変な時期だから、私が支えとなってお母さんの不安やストレスを減らすことで、虐待予防につなげたいです。

Q. ボランティア体験は受験にどう活かせましたか？

面接本番で役立ちました。「看護師以外に考えている職業はありますか?」と質問され、「助産師になりたいです。」と、ボランティア体験や見学で感じたことと一緒に伝えることができました。ただ、希望を述べるよりも、強く自分の熱意が伝わったと思います。

助産師になりたい!と将来の目標を見据えた上での参加で、より具体的に自分のやりたいことへの「気づき」が得られて、受験の面接でも活かせたとのこと。これからの活躍を応援しています!



▶先生にもお話を伺いました。

Q. はじめにボランティアへ参加する意義、生徒さんたちへ勧めた理由を教えてください

生徒が実体験から得られるものは非常に大きいと感じます。ボランティア体験授業を通じ「うまくいかなかった」「憧れとは異なる面があった」と実感することで、生徒の進路選択の際に地に足を付けた本気の選択ができるようになるでしょう。特にA0入試、推薦入試希望の3年生では体験したことを自身でさらに深めることで、志望理由書の作成や面接練習にも活かせるため、参加を勧めています。

Q. 実際に送り出してみての感想や、生徒さんの様子はいかがでしたか？

生徒から、「どう動いていかわからなかった」など、戸惑った経験と共に「行ってよかった」という感想を聞いています。同年代や家族しか交流の機会がない生徒も多いため、ボランティアは実社会と関わる大きな機会と同時に、現場を体験できることに意義を感じているようです。

Q. 今の学生にどんな実体験が必要だと思われますか？

まさに、すてっぷ・あっぷるで提供しているような「生の経験」だと考えます。子供は可愛いだけではなく、自分が思った通りには動かない、それぞれに個性がある、これらを実体験として知ることが、本当に意義があることだと思います。教員を目指す生徒では、調理実習や科学実験のお手伝いをする中で、指導者の目線を知る非常に良いきっかけになると思っています。

Q. 望ましい実施時期は？

夏休み期間中が良いですね。個人的に生徒の志望や都合に応じ、今回のように通常の授業がある時にも、融通を聞かせて受け入れていただけるのは非常にありがたいと思います。

「小学校、保育園、幼稚園と異なる、地域社会での子育てについて、すてっぷ・あっぷるの取り組みや方針等を生徒に伝えていただけたら、職場体験だけではなく社会問題として目を向けるきっかけになり、受験にも役立つ」とのお言葉も頂きました。

2019年度事業報告

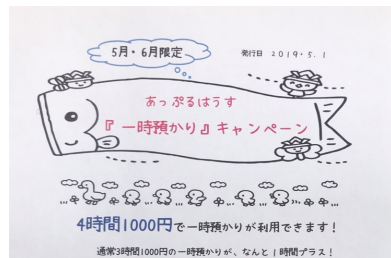
甲州市地域子育て支援センターあっぷっぷ(甲州市委託事業)

支援センター全体の活動としては、0歳児からの赤ちゃんの月齢ごと、それぞれのママごとのニーズに合わせて、きめ細やかに幅広い講座や活動を提供することができました。マスク不足の折には臨時で手づくりマスク教室も開催。コロナ禍による3月からの予期せぬ臨時休館で、止む無く最後のイベントは中止になりました。



一時預かり「あっぷるはうす」(甲州市補助事業)

2019年は例年通り、農繁期に一時預かりの利用者が集中して、とてもにぎわいました。5月、12月はキャンペーンなどのPR活動も行ったことで、年間通じて利用者さんが訪れてくれる状況になりました。利用者さんがお友達を連れてきて下さるなど口コミで増え、例年並みの活動実績になりました。



託児付ママリフレッシュ講座

エアロビクス、バランスボールなどでは4月から年末まで例年並みに、多くのママと妊婦さんの参加で活発な活動ができました。PR活動も丁寧に行ったことで、利用者さんの増加にもつながったと思います。法人設立当時と比べ、年々運動不足による妊婦さんの体力低下が深刻になっている印象です。日常の運動の大切さを積極的に伝えたいです。



中学・高校生赤ちゃん抱っこ体験・ボランティア体験

前年度、体験活動が推薦入試に役立つ生徒の話が伝わり、進路選択にこの体験を利用したいという生徒が増えてきました。大学の入試制度も変わり、ボランティア活動がより大切になることを踏まえて、ニーズに合った内容を検討していこうと考えています。



小学生企画

年々参加者・リピーター増加中の楽しい企画です。新しく増やした科学実験の講座も大人気で、冬休みの塩山高校書道部とのコラボも定着してきました。キッズダンスでは通年で多数のイベントに参加、発表の場を頂き活発に活動できました。しかし、初めて企画していた3月の大きなイベントが中止となったのは残念でした。



親学習出前講座(文部科学省関東家庭教育支援チーム)

毎年継続して依頼くださる学校が多くなりました。以前は、学校から「就学前に家庭でこんな習慣をつけて欲しい」という要望が多かったのですが、最近では「不安を抱える保護者に、とにかくなんでも学校に相談して欲しい」という要望が増えてきています。

2019年&2020年度特に力を入れた事業

委託事業・補助事業の方がスタッフも充実して安定してきたので、法人事業の拡大の検討を行いました。これまでの活動からニーズを拾い出してみると、学生ボランティア活動を一層充実させること、小学生企画の拡充、思春期から更年期まで幅広い女性の心身の健康を考える活動などが取り組むべき課題として上がってきました。新たな活動を、より明確に打ち出すために2020年度に定款変更を行いました。助成金等も活用し、活動に弾みをつけていきたいです。

特集② WITH コロナ

事業概要

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、すてっぷ・あっぷるの日常も大きく揺さぶる出来事でした。全国に広まるマスク不足、臨時休館、イベントの中止など、予期せぬ事態に翻弄されながら、感染防止策を取りつつ活動を続けることができました。実際の対策詳細についてご報告していきます。



すてっぷ・あっぷるのコロナ対策

緊急事態宣言、臨時休館からの活動再開に向けて、理事やスタッフでの話し合いを行いました。基本的な感染対策で広く言われていた「三密を避ける」や、マスク手洗い、消毒、検温など、しなければならないことはたくさんありました。

すてっぷ・あっぷるではそれぞれの担当分野ごとに課題を整理して、主に「人的対策」と「ハードウェア面の対策」の両面からコロナウイルス対策を行ってきました。



◀抗菌コーティングした室内
▼非接触型体温計を設置



主な感染症対策

①人的対策

感染予防対策の第一歩は、スタッフを中心とした人的な予防対策から始まりました。入館時のスタッフ・利用者の検温と手指消毒、マスク着用徹底の呼びかけなど、人の出入りに伴う予防。そして、定期的な換気と、三密を避けるための人数制限などといった利用中の環境調整を行いました。

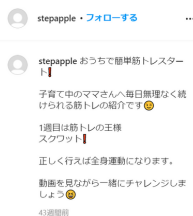
②ハードウェア面の対策

臨時休館から再開後は、まず、消毒液や小型の非接触型体温計を準備。目に見えないウイルスが持ち物や手指などに付着して、建物を介して接触感染するのを予防するために、支援センター、一時預かり、廊下、女子トイレ、おもちゃに抗菌コーティングを行いました。基本的な感染対策のために必要な機材を設置した上で、体温チェックと人の出入りを記録できるよう、カメラ型の非接触型体温計を設置しました。

コロナ対策の新たな試み①

あっぷるTV開始

屋内で集まって行う活動に制限がある中、Instagramで無料で視聴できる動画配信をスタートさせました。おうちでできる運動プログラム、わらべうた、手遊び、ベビーマッサージや、工作、折り紙などをまんべんなく紹介しています。また発表会ができないため、キッズダンスも配信しています。



コロナ対策の新たな試み②

三密回避ウォーキング

臨時閉館期間中にも運動プログラムを継続的に実施できないかを検討、三密の状態を避ける目的で屋外でのウォーキングを提案、実行しました。コロナ禍で自宅にこもって運動不足になることの解消に効果が上がりました。



コロナ対策の新たな試み③

SNS & zoomの活用

新型コロナが指定感染症になった直後にLINE@で会員様向けに臨時即報、状況に応じて感染対策や手づくりマスクの型紙等を配信しました。併せて公式facebookやブログでもママが安心できるような情報発信を継続。対面できない状況下ではzoomによる面談やスタッフ研修も実施しました。



2020年度事業報告

甲州市地域子育て支援センターあっぷっぷ(甲州市委託事業)

コロナ禍での1年でした。少人数制を取り、スタッフにも細かな気配りしてもらいながら安心・安全を最優先に環境整備ができました。緊急事態宣言中は、家で過ごす時間に活用してもらおうとInstagramによる動画配信も始めました。9月以降は対策をしつつ、あっぷっぷひろば、幼児教室なども通年通りの活動に戻し、その他の講座も盛況でした。



一時預かり「あっぷるはうす」(甲州市補助事業)

コロナ禍で4月の利用者は一組のみ！そこでJA等にチラシを配布したところ、農繁期にはスタッフ確保が心配になるほど賑わいました。当初は「感染防止で緊急時のみ預かり」としたものの、より具体的に「農繁期、預け先がない、育児に行き詰った時」としました。その結果、長期利用者が増加、ママとの信頼関係を築いて悩みなどのお話をゆっくり聞きとることができ、ストレス軽減効果を実感できました。



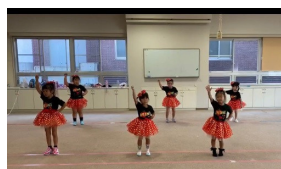
託児付ママリフレッシュ講座

三密を避けるなど屋内活動が制限され、支援センターの臨時休館になったことを受けて、屋外でできる活動としてウォーキングを導入、普段のメニューから切り替えて運動プログラムを継続させることができました。冬の間にも同様にウォーキングを取り入れることで、運動不足解消に役立てていただけたと思います。



中高大生インターンシップ(中学・高校生赤ちゃん抱っこ体験・ボランティア体験)

中高大生インターンシップと事業名を変更して、学習内容を充実させました。コロナ対策のため推薦入試の3年生に限定し、少人数で行いましたが、この状況でも例年以上に希望者が増えました。コロナ禍の苦境の中、少しなりとも「進路の役に立った」との感想を頂け、手応えを感じています。



小学生企画

キリン福祉財団の助成を頂き、勝沼と山梨県生涯学習推進センターの2カ所での実施。コロナ禍で人数制限等はあるも一定の成果が上がり、個別支援への連携もできました。キッズダンスは少人数で実施し、閉じこもりがちな子ども達も開放感が得られて、笑顔が増えました。



親学習出前講座(文部科学省峡東家庭教育支援チーム)

講座開催は難しいと見越して、甲州市・山梨市の全ての学校に就学児健診前に配布物を用意しました。小規模校では、「こんな時だからこそ実施したい」という所もあり、感染防止対策を行いながら開催しました。

LINE@で情報発信中!

毎月のおたよりや、イベント情報などを配信します。毎月のレシピも掲載。すてっぷ・あっぷるの講座やイベントに参加して、ショップカードでポイントゲットも!! 皆さんの登録をお待ちしています。



2021年度 特に力を入れていきたい事業

子育て拠点事業の拡張機能として、障害児・多胎児等より支援を必要としている家庭への相談体制の強化を行うこととしました。一時預かりとも連携しつつ、新たな専門スタッフの増員、スタッフの研修、近隣の市町村の様々な機関との連携を構築するなど足固めをしっかりと行っていきます。

🍏 賛助会員募集

「すてっぷ・あっぷる」では、私たちのNPO法人活動にご賛同いただける方からのご支援を募っています。一時的な寄付にとどまらず、私たちと一緒に子育てを支える側として社会参画しませんか？

賛助会員になってくださった方には、次のような会員特典が付与されます

- ▶最新のニュースレター(会報)のご送付
- ▶ご希望により会報へのご芳名掲載、会報PRコーナーへ貴事業所、店舗の広告掲載
- ▶イベントへのご招待、ご希望によりイベントブースへのご出店
- ▶プロジェクトへのご参画

賛助会員申し込み



賛助会員お申込方法

右記QRコードのページよりご確認、必要事項をご記入の上、ご郵送またはFAXにてお申し込みください。申込書提出に併せて指定口座への賛助会費お振込みをもって、賛助会員手続き完了となります。入金確認次第、折り返し最新の会報をご送付させていただきます。

ジュウサン
有限会社 住産
山梨県知事許可(10)第1118号



出典 Google map

有限会社 住産(じゅうさん)では、土地建物、アパート、マンション中古住宅などの仲介を行っています。これまでも、すてっぷ・あっぷるのイベントでブース出店をしてきました。家族で暮らす「住まい」のご相談は、☎055-226-0064 へぜひご一報ください。

地図はこちら



これまでの助成金活動

パルシステム山梨/山梨福祉財団/独立行政法人福祉医療機構(WAM)/公益財団法人キリン福祉財団/山梨県地域活性化協働事業費補助金/甲州市協働のまちづくり助成事業/(一社)山梨県労働者福祉協議会/ニッセイ財団



編集後記

前回、念願の季刊誌創刊号を出してからすぐに2019年度の報告を出す予定でしたが、コロナ対策に追われる中であつという間に1年が過ぎてしまいました。あらためて年2回の発行を目指し、編集部会の協力の下、完成を見ることができました。

カラー版もご覧ください！

すてっぷ・あっぷるのHPでカラー版「あっぷる通信」を掲載中です。右のQRコードを読み取り、是非ご覧ください。



<https://www.kosodate-oyasodachi-apple.org/>

ご意見お待ちしております

「あっぷる通信」のご意見・ご感想をスタッフ一同お待ちしております。右下のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールフォームでご連絡いただくか、下記の連絡先にご連絡ください。



山梨県甲州市勝沼町勝沼756-1 甲州市役所勝沼支所2階
甲州市地域子育て支援施設内
地域子育て支援センターあっぷる

info@kosodate-oyasodachi-apple.org
TEL/FAX 090-5764-4428、0553-39-9382



会計のご案内

HPに収支決済報告がありますので、ぜひご覧ください。

